

漁港・漁村の観光機能に関する基礎的研究

水産土木工学部

研究の背景・目的

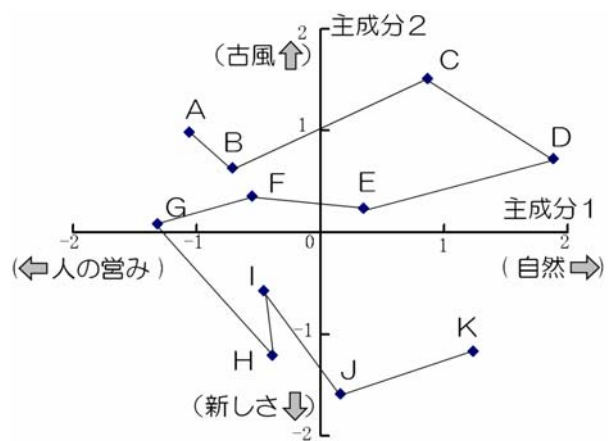
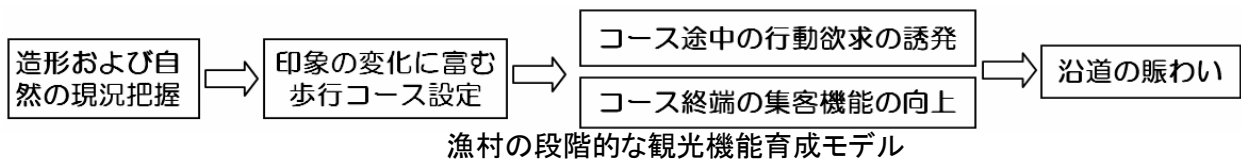
1. 漁村地域には豊かな文化と自然が存在しているが、活力低下が顕著である。
2. 漁港・漁村の有する多面的な機能への関心が高まっている。

研究成果

1. 歩行コースの設定に端を発する、漁村の段階的な観光機能育成モデルを構築した。
2. 一漁村に歩行コースを仮定し、評価者が抱いた印象をデータ化し主成分分析した。

波及効果

漁港・漁村の魅力を生かし、水産業と観光の融合による地域活性化が期待される。



行動要求	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
風景を眺めたい			◆	◆	◆			◆		◆	◆
座りたい				◆						◆	◆
寝転ぶ				◆							
食べる・飲む											
耳を澄ませたい				◆							◆
深呼吸したい				◆	◆						
写真を撮りたい			◆	◆						◆	◆

コース途中での印象の変化と行動欲求

※データ取得に日本大学近藤健雄研究室の協力を得ました。

(漁港施設研究室・佐伯公康, 坪田幸雄)